

解放後のカオダイ教

高 津 茂

はじめに

カオダイ教は最初、霊媒たちの集まりを通して創られた。1921年4月、カオダイ教最初の信者である、宗教上の名前はゴ・ミン・チウ (Ngo Minh Chieu) として知られているゴ・ヴァン・チウ (Ngo van Chieu) [1878-1932] がカオダイの精神的象徴として天眼を取り入れた予見を得た。1925年12月にゴ・ミン・チウは、ファム・コン・タック (Pham Cong Tac) [1890-1959] と前植民地評議員レ・ヴァン・チュン (Le van Trung) [1875-1934] によって1925年7月に創設された扶鸞 (Pho Loan)⁽¹⁾の降霊会に近づくようになり、1926年9月29日にフランス植民地政庁に新しい宗教の創設を公表し、認可を願い出た。以来凡そ80年、カオダイ教も傘寿を迎えようとする⁽²⁾。この間、カオダイ教の信者たちは3つの体制から迫害に耐えてきた。最初がフランス植民地行政から、二番目がゴ・ディン・ジエム (Ngo Dinh Diem) 政府から、そして三度目の時期が解放後の共産党政権による。カオダイ教の歴史は文字通り大道三期被迫害である。言い換えれば宗教の自由を求め、三度戦った歴史でもある。

その三度目の受難を概観したい。1975年4月30日午前11時25分 (現地時間)、当時のヴェトナム共和国大統領に2日前に就任したばかりのズオン・ヴァン・ミン (Duong van Minh) は、南ヴェトナム軍全将兵に対し「武器を放棄せよ」と布告した。長きに亘る戦争の終結と民族の統一は「千年に一度の春」と称された。統一後30年になろうとする現在、解放後のカオダイ

教の動向を概括するなかで、カオダイ教の変化を明らかにしていくことを本小稿の目的とする。なお、カオダイ教徒の一部は解放前後に国外への脱出を果たしており、世界各国にカオダイ教の支部を置き、インターネットで情報交換や信仰共同体のネットワークを形成している⁽³⁾。ヴェトナム以外の国におけるカオダイ教の活動は、極めて活発ではあるが、本小稿では極力ヴェトナム本国での現在のカオダイ教の状況をマスコミ報道等に散見される資料をも基にして論を進めることとしたい。

1. 解放後の宗教政策

ヴェトナム政府の宗教政策は1964年、首相通達60号の中で宗教政策の見直しをし、宗教をもつ同胞に対して、信仰の自由は正当な要求であるとした。信仰の自由は、民族独立・人民民主と結びついていると謳っている。1955年6月14日の主席令234号は第1章で信仰の自由を保証し、宗教の自由の概念の3つの側面に言及している。すなわち「政府は信仰の自由と祭祀の自由、宗教に従う自由あるいは従わない自由を保証する。宗教機関での説教の自由と宗教を伝道する時の自由」の3つである。この3つの自由は1991年の議定69号⁽⁴⁾にも、1999年の議定26号にも一貫している。しかし、その一方で国家の政策や法律に反することをするために信仰の自由や宗教の自由を悪用することは禁じられている。そして、宗教団体として認定する、あるいはその宗教団体の中で聖職者として行動することを認定する権限は政府にあるとされている。要は社会主義への適応を迫られているのであ

る。現在までに6つの宗教の20の「教会」組織に法人資格が与えられている。最も新しく公認されたのが「(南部) ヴェトナム福音聖会」である。仏教の聖職者は1975年には1万5000人不足だったのが、現在は3万3066人(2002年)に倍増したことに見られるように、ヴェトナムにおける公認された宗教団体の宗教の自由は少しずつではあるが確かに進展している。

また、宗教活動を社会の中で展開しようとするならば、土地や建物といった宗教資産が必要になる。中央土地局と宗教委員会によって2000年11月に出された規定によれば、「現在宗教組織によって占有されているすべての資産と礼拝所の土地所有権は宗教組織に与えられる」としている。この規定は、2万1000の法的に認められた宗教資産と礼拝所だけに適用される。新しい規定は、「いったん政府に移譲された宗教資産と土地は国家が所有する」とした1999年に出された宗教に関する議定の規定を具体化したものである。1954年の抗仏戦争勝利後、1975年の抗米戦争勝利後、共産党は、仏教、カトリック、その他の宗教が所有していた多くの資産を掌握した。近年、返還された資産もあるものの、係争中のものが残っている。カオダイ教徒はいまだに続く当局による土地の接収に直面しているという。当局者によれば、新しい通達は、宗教資産には土地税を免税しており、2000年11月15日から発効する。

では、誰が宗教団体として適正であるのか否かを法的に認めるのか。1999年6月1日にヴェトナム国会を通過・成立した「ヴェトナム祖国戦線法」は祖国戦線の役割を強化し、立法、選挙立候補者の批准における祖国戦線の広範な権限を規定している。祖国戦線は、すべての非政府の大衆組織を結集した傘である⁽⁵⁾との認識から、その権限は、どの宗教が公的に認知されるか、あるいは非合法なものとするのかを決定するところまで拡大している。

さらに、公的に認定された宗教の特権として、宗教資産の保持だけではなく宗教の職業的な聖職者には公益労働の義務をも免除され

る⁽⁶⁾。

1998年10月19-28日の10日間に及ぶ宗教的寛容に関する国連特別報告者の調査の後、1999年3月16日、国連の宗教に関する特別調査官アブデルファター・アモル (Abdelfattah Amor) 氏のレポート (Civil on Human Rights, Including The Question of Religious Intolerance) が発表された。それには、1990年に開放政策がとられて、積極的発展がみられるものの、「宗教は、望めば自由に発展できる社会の構成要素というより政策の道具であり、国際法による宗教の自由とは結局は反するようなものである」とヴェトナムの宗教について述べている。

また、アメリカが国際宗教自由法なる法律を制定し、宗教の自由の基準を満たしていない国に対して制裁を課すという政策を採り、EUとも連携して1998年以来ヴェトナム政府に圧力をかけ続けたこともあり、経済支援と宗教の自由をバスターにしたかは定かでないものの、宗教政策も少しずつ緩和傾向にある。アメリカ国務省は人権に関する年次報告書⁽⁷⁾を出しているが、改善はみられるものの、ヴェトナムの人権状況はお寒い状況であるとしている。宗教の自由では改善され、宗教活動の増大があったが、「政府が宗教組織と組織的宗教活動を統制しているのは、一部には、組織された宗教が共産党の権威と影響力を弱めるのを共産党がおそれているからである」と報告書は述べている。

2003年1月22日に、政府宗教委員会は勲一等独立勲章の受賞式を開催した。チュオン・ミー・ホア (Truong My Hoa) 党中央委員・国家副主席などの指導者が出席し、宗教界からは、ヴェトナム仏教教会、ヴェトナム司教協議会、カトリック団結委員会、ヴェトナム福音聖会、カオダイ教と他の10の宗教の代表が出席した。公認宗教団体の懐柔を図りつつ、アメリカや国際人権団体のヴェトナムにおける人権違反が引き続き増加しているとの人権攻勢を内政干渉として退けねばならない都合上、公認宗教には緩和が更に進んだ⁽⁸⁾ものと見られる。

2004年度に入りホー・チ・ミンの宗教政策を

持ち出し、信仰と愛国の結合を奨励している。ホー・チ・ミンは信仰と愛国を結合することを奨励した。なぜなら国に榮譽があつてはじめて宗教は明るくなり、国が独立してはじめて信仰も自由になるからである。よき信徒はよき公民でなければならず、信仰と愛国は公民の責任であり、信徒の本分であるとの考えからである。

民族のよき伝統・風俗を彼は尊重したが、「迷信異端」と腐俗には厳しく批判した。しかし性急・粗暴に対応すべきではなく、柔軟に対応し、新しい文化的な生活建設と結合させなければならないとした⁽⁹⁾。このホー・チ・ミンの宗教政策を原則としつつ、2004年5月23日の『ニャンザン』には、「ヴェトナム祖国戦線とこれからの宗教信者運動工作の内容」が、特集され

1. 祖国戦線幹部と宗教信者において、党や国家の宗教政策、とりわけ7中総決議⁽¹⁰⁾を徹底させる。
2. 宗教信者と宗教地区における愛国競争運動や各政治・社会運動を推進する。
3. 信徒大衆の中に骨幹となる勢力・政治基礎をつくり、宗教地区において政治・社会組織やその組織と活動を強化することに関心をもつ。
4. 宗教信者が敵対勢力の宗教を悪用する陰謀を警戒し、闘うよう宣伝し運動する。
5. 各宗教団体が出している進歩的な宗教活動方針を宗教信者が実行するように運動する。たとえば、ベトナム仏教教会の「道法一民族一社会主義」、ベトナム司教協議会の「同胞の幸福に奉仕するために民族の心の中で福音的に生きる」、ベトナム福音聖会の「天主を敬い、祖国に奉仕する」、など。

と記されており、ヴェトナム共産党も政府も、解放直後のような露骨な力による抑圧政策では、南部民衆の宗教的心情や政治的宗教運動の宗教的要素は、行政機構のように簡単には壊滅させることはできないという事実気づきつつある。緩やかな文化革命をリベラルを装って進めるよう転換し始めていることが分かる。

2. 解放後のカオダイ教への施策

解放後のカオダイ教のあり方について専論した文献には、モスクワ大学東洋・アフリカ研究所 (Institute of Oriental and African Studies of Moscow University, Russia) においてヴェトナムにおける宗教を講じている助教授セルゲイ・ブラゴフ (Sergei Blagov) 博士が2002年8月2日にブダペストで開催された「宗教的自由のための国際協会 IARF (International Association for Religious Freedom) 第31回世界大会」で、『ヴェトナムにおけるカオダイ教——共産主義政府の宗教政策の事例研究』⁽¹¹⁾と題した講演録がある程度である。本小稿ではブラゴフ論文を参照しながらも、カオダイ教全体の変化について見た上で、カオダイ教を構成する幾つかの宗派に分けて、その動きを個々にみることにする。

まず、カオダイ教に対する評価については、「カオダイ教は宗教活動と政治活動が密着しており、創立より現在に至るまで、同教は指導者の政治的態度により幾つかの宗派に分かれてしまっている。すなわち、革命・抗戦に従う愛国的宗派と、どのような方向の風もその風向きを変えるように、機会によって親仏・親日・親米となる宗派があった。現在、同教には約150万人の信徒がいるが、その中の大多数はタイニン派が占めている。比較的良い別の宗派には、ミン・チャン・ダオ派 (Minh Chan Dao)、ティエン・ティエン派 (Tien Thien)、ベン・チェ正道派 (Chinh Dao Ben Tre)、ダ・ナン・カオダイ伝教派 (Cao Dai truyen giao Da Nang) などがある」⁽¹²⁾としている。この認識に基づき、カオダイ教は「幾分宗教的な含みを持った反動的な日和見主義者の組織」⁽¹³⁾であるから、「①教会の成長は認めない。②カオダイ教の様々な宗派の統一は妨げる。③カオダイ教の集会において、全ての経済的・社会的な行動を禁止する⁽¹⁴⁾」という政策をもって臨んだようである。

(1) ヴェトミンによる迫害前史：1945-1975年
解放後になって初めて迫害が起こったのでは

ない。1999年12月5日、パリの Free Vietnamese Community という海外に移ったヴェトナム人達によって開かれた世界人権宣言記念式典において、レ・チュン・カン (Le Trung Cang) は、カオダイ教のレポートを発表して、「カオダイ教に関して、ハノイ政府の政策は、単に抑圧的であるばかりでなく、組織的な方法で信仰を根絶させようとしている」として、1945～1975年の時期に、「北部ヴェトナムにおいて共産党が権力を掌握した年である1945年の初頭に、ヴェトナム共産党に指導されたヴェトミン戦線は多くのカオダイ教信徒を虐殺した。クアンガイ省には2500人以上の指導者を埋葬した共同墓地が発見されている。中部のカオダイ教の広報事務所には犠牲者名簿や写真等、膨大かつ詳細なこれらの残虐な行為を証明する資料が保管されている。タイニン省のチャ・カオ (Tra Cao) 村でも大量殺戮が行われた。共産党ゲリラが村人を殺害している間、ヴェトミン軍はタイニン聖座の境界の外郭を砲撃した。犠牲者の大部分はカオダイ教信者であった⁶⁵⁾」と述べている。

その上で、1975～1996年を第2の抑圧された時期と捉えている。これは、レ・チュン・カンが反共自由主義者として共産党政権からの抑圧のみを視野においているからに過ぎない。

(2) 露骨な力による迫害時期：1975-1995年

さて、1975年のサイゴン陥落直後のカオダイ教はいかなる状況にあったのであろうか。陥落の余波で、ハノイ当局は自主性を持つ権威的な社会組織としてヴェトナム南部にある全ての宗教共同体を破壊し、社会主義ヴェトナムの政治イデオロギーに従属させるために厳しく再組織化をしようとした。新しい当局は僧侶の大多数、とりわけ1975年以前に社会的活動をしていた僧侶はCIAのスパイとして見なししていたし、ヴェトナム政府の官吏達は「悪しき要素」により宗教が悪用されることを心配していた。それゆえ、1970年代の後半は、諸宗派を迷信的で反革命的であると見なし、政府機構は宗教を排除しようとしていたようである。例えば1970年代

の後半、当局は10-15年以内の新興宗教を破壊し、反動的な政治機構は3-4年以内に解散し、全ての迷信は8-10年以内に打破するつもりでいた⁶⁶⁾。1975年4月30日、共産軍が教団本部に入りその後1年間居座った。多くの教団指導者は再教育キャンプに送られた。指導者、聖職者の大半は教団本部から退去させられた。セルゲイ・ブラゴフによると、「公的データによれば、1975-1983年の間に全部で35の反革命的組織がタイニンで暴露され、1291人の信徒が逮捕され、39人の信徒が対立の中で殺され、9人の信徒が死刑の判決を宣告され、1000人以上の信徒が再教育キャンプに送られ、3000人以上が各県で教育された」。加えて、1975年以降、ハノイはカオダイ教の伝統的組織を国家のコントロールする運営評議会に代え、財産を接収し、教理学校を閉鎖した。カオダイ教の信仰は、扶乩 (扶鸞) を利用したスピリチュアリズム (spiritualism) であり、自動筆記から神仙のメッセージを得、第3の人によって解釈される。これはカオダイ教の最も重要な儀式だとされ、組織の事業、聖職者の任命、昇進、規則の改正はこの降霊会を経て護法⁶⁷⁾ (Pope) によって是認されなければならないというカオダイ教の根幹をハノイ当局が迷信として禁じたのである。

また、1977年11月11日の布告297号によれば、カオダイ教会は祖国戦線の支配下に置かれ、宗教資産の大部分は没収された。さらに、いかなる宗教活動も事前に当局の承認を必要とし、不服従は聖職者の逮捕に結びつくことされた。さらに、1978年9月20日に、タイニン省祖国戦線はいかなるカオダイ教徒の宗教活動も反革命と見なすと宣告した。その理由としては、「タイニン・カオダイ聖会」の指導部の中に反革命的活動をした反動主義者がいたとの非難であった。その反動主義者とは、レ・ヴァン・チュン (Le Van Trung)、ファム・コン・タック (Pham Cong Tac) などの教団創立者のことのように、彼らをフランス植民地主義者・日本ファシスト・アメリカ帝国主義者の従僕として非難した。

掌管評議会もしくは一時的な高僧の機関が、「カオダイ教を本当の宗教に変えるという喫緊の課題を果たす」目的で創られた⁹⁸。1979年1月31日 H. E. ホー・タン・コア (Ho Tan Khoa) が掌管評議会の初代議長に就任した。教会が安定化し次第一時的な機関は解散し、次いで聖職者の評議会が当然選出されるものだと思われていた。それゆえ、カオダイ教徒の聖職者評議会は何の抵抗も示さないまま全ての宗教団体の解散と代わりに掌管評議会の設立を告げる布告によって自らの存在を実際には終わらせることとなった。1979年3月1日。タイニン省政府は、教団指導部に次のような宗教的布告1号 (the Religious Decree number 1/HT/DL) に署名するように圧力をかけた。その内容とは、「①. 教団のヒエラルキーと管理システムを解体する。掌管評議会がそれらにとって代わる。掌管評議会はタイニン省祖国戦線の統制下におかれる。②. 多くの宗教的施設は共産主義者の管理と使用に委ねられる。」この布告が出されると、教団は強く反発した。多くの逮捕者がで、4人が死刑の判決を受けた。1980年6月4日、省行政委員会は協会の全ての政治的機関を解散し、聖座 (総本山) の内にある46棟中40棟の建物を国家に移管するよう命令を下した。しかし、主たる寺院と5つの最も重要な建物は教会に残された。実際には降霊会を禁止されたことによってカオダイ教の階層制度の廃止が象徴的にもたらされた。そのため、実際には新しい高僧の就任も停止されることとなった。降霊会の廃止で、タイニンの階層制度の構成員は減少した。この結果、1976年、聖座 (総本山) のすぐ近場のホア・タイン (Hoa Thanh) 地区の全人口は220,000人であったが、1982年の末には多くの高僧と信者が自分の郷里に帰らねばならなかったので150,000人に減った。聖座 (総本山) そのものは12の寺院とその他の宗教建造物を含めて97ヘクタールに及ぶ広大な領域であるが、1980年代の初めには聖座の領域内部に永住することを公式に許されていたのは、たった43人の高僧だけであった。1975年までのハノイの資料は、ヴェト

ナム南部におけるカオダイ教徒グループの信者総数は約300万人であった。しかし、解放後、例えば1988年ヴェトナム政府宗教委員会委員長はヴェトナムにおけるカオダイ教は約150万人の信徒を統制していると主張していた。その3年後の1991年宗教委員会委員長はヴェトナムにおけるカオダイ教徒は約200万人と述べた。しかし、他にも非政府系の資料もあるが、そもそもこれらの資料は推測を伝える以上のものではない。なぜなら、1979年と1989年のヴェトナムにおける国勢調査の質問事項には、いかなる宗教に加入しているかという質問は含まれていないからである。

(3) 公認宗教への道：1995～現在

1994年6月2日、ハノイにて、ドー・ムオイ書記長が、タイニン省カオダイ教団指導部と会った。団長は、掌管評議会会長の配師トゥオン・トー・タイン (Thuong Tho Thanh) であった⁹⁹。この会談を契機に、カオダイ教の一部の宗派を公認していくという政策の変化がみられる。すなわち、カオダイ教は多くの宗派の寄せ集め¹⁰⁰であり、地域や政治的な考え方により宗派に分かれている。1972年11月22日のカオダイ教統一会議 (10派96代表) に参加した主な宗派¹⁰¹としては以下のものがあつた。かつこ内は本部所在地。

1. 中央統一カオダイ教会 Giao hoi Cao Dai thong nhat Trung Uong
2. 三観聖会 Hoi Thanh Tam Quan (Binh Dinh)
3. カオダイ教チュウ・ミン派¹⁰² Phai dao Cao Dai Chieu Minh (Can Tho)
4. 弥勒聖会 Hoi Thanh Di Lac (Vinh Long)
5. 宝座高尚聖会 Hoi Thanh Cao Thuong Buu Toa (Bac Lieu)
6. 前江聖会 Hoi Thanh Tien Giang (Chau Doc)
7. ミン・チョン・ダオ後江聖会¹⁰³ Hoi Thanh Hau Giang Minh Chon Dao (Hau Giang)
8. ラム・フウエン・チャウ聖会 Hoi Thanh

Lam Huyen Chau (An Xuyen)

9. カオダイ宣教聖会 Hoi Thanh Tuyen Giao Cao Dai (Da Nang)

10. タイニン聖座カオダイ聖会²⁴⁾ Hoi Thanh Cao Dai Toa Thanh Tay Ninh (Tay Ninh)

この会議には政治上の立場が異なるため参集しなかった主な宗派として、ベン・チェ・バン・チン・ダオ²⁵⁾ Ban Chinh Dao Ben Tre (Ben Tre), ティエン・ティエン²⁶⁾ Tien Thien (Ben Tre) などがある。この12派の中で、祖国戦線によって愛国的であるとみなされた宗派が、まずは公認への検討対象となったと思われる。逆に言えば、保守反動とみなされた宗派は無許可な非合法の宗派とみなされた。2004年現在すでに公認されたカオダイ教の宗派は、①ティエン・ティエン派、②タイニン聖座カオダイ聖会、③(中越)カオダイ宣教聖会、④ミン・チャン・リー (Minh Chan Ly) 派と⑤カウ・コー・タム・クワン (Cau Kho - Tam Quan) 派の5派であり、元来愛国派で公認は採ってはいない(準公認と考えられる)宗派は①ベン・チェ・バン・チン・ダオ派、②ミン・チョン・ダオ後江派、の二派。そして、未だ無認可の宗派は残り5派である。

この公認五派を中心とした公認までの過程を見ると、1995年から1996年にかけ、教典どおりにするため、多くの信徒から掌管統治評議会に誓願が出された。しかし反応がなかったため、タイニン省政府に押しかけたり、教団本部敷地内に座り込みなどが行われた。掌管評議会は公安を呼び、信徒たちをけちらし、指導者を逮捕した。指導者の1人フウィン・ヴァン・タン (Huynh Van thang) は意識がなくなるまで殴打された。このような状況の中で1996年5月27日、タイニンの共産党支部はプラン1号 (Plan 01/KH/TU) を立案した。すなわち次のような内容をもったものであった。「①.『タイニン・カオダイ聖会』を1宗派として是認する。②. 宗教的人工産物の『お筆先 (Co But)』の使用を禁じる。③. 教団の位階の5段階システムを2段階に減らす。④. 公安、政府宗教委員会、大衆運

動委員会、省の党支部の常務委員会から選出されたメンバーから成る運営委員会を形成する。その委員会では次のことを行う。a. 掌管評議会の次の任期のメンバーを選出する。b. 上記の方向にそって新しい内規を策定する。c. 新しい内規を承認してもらうために、すべての省の選出代議員による教団協議会を組織する²⁷⁾。これは②の扶乩を用いて神仙の神意を諮るというカオダイ教の特質を迷信として放棄することと交換に、最大宗派としてのタイニン・カオダイ聖会の公認が提起されたものと言える。また、この動きの中で1997年には、新しい内規が掌管評議会によって公布された。掌管評議会の法的地位は認められ、より権威が与えられた。すなわち、掌管評議会が宗教的地位を叙階する権限をもち、政府がそれを認めるというかたちになった。つまり、新しい宗教的指導者は神意を得た護法によることなく世俗の人々によって任命されることになったということである。これは、最高位の聖職者によってのみ叙階が認められるとする教典(『法正伝注解』「九重台職位の公選律」と全く相反する。しかし、1999年11月23～25日に 政府は、1648人の指導者を叙階した。「教友 (Giao Huu)」から「教師 (Giao Su)」,「配師 (Phoi Su)」,「道人 (Dao Nhon)」,「承師 (Thua Su)」レベルが306人、「道友 (Dao Huu)」,「礼生 (Le Sanh)」レベルが1342人²⁸⁾。このような叙階は前代未聞のことであり、教団のすべてのことを決定するために、教団を政府や祖国戦線が愛国者や聖職者としてふさわしいと判断したかれらの代表者で満たしていると理解され、正統的な教えと管理システムを廃止し、天によって叙階された聖職者を世俗的に叙階された聖職者に代えることによって、教団運営権を祖国戦線が掌握したものとして、海外のカオダイ教徒たちからは反発をも招いた²⁹⁾。すなわち、カオダイ教とは全く異なった新しい宗教への変質とみなされた。

3. 各宗派の動き

ここでは、ヴェトナム労働党機関紙『ニャン

ザン』を中心とするマスメディアに表出したカオダイ教の各宗派についての記事を通して見える動きを時系列に沿って記す。

(1) 認可を受けた宗派

① ティエン・ティエン (カオダイ) 派

ティエン・ティエン派は伝統的に共産主義者と近い関係をもってきた。1962年、ヴェトナム南部民族解放戦線を支持するため、カオダイ教協議会を結成した。その経緯もあってか、この宗派の代表に国会議員が割り振られた。また、同宗派のメンバーから祖国戦線の高位の幹部も出ている。共産党政権との協力関係は、1995年2月6日にハノイによって公式にコメントされ、同宗派の多くの指導者は、共産党の高級幹部にもなっている。何人かはメコンデルタ西部諸省の祖国戦線支部を指導している。指導者の一人チン・ヴァン・ラウ (Trinh Van Lau) はかつてタイニン省の省長を務めたことがある。このように共産党や祖国戦線との人脈を持つ同派が1995年2月8・9日、ベン・チュエー省でティエン・ティエン・カオダイ万霊会⁶⁰⁾ (Cao Dai Tien Thien hoi Van Linh) を開き、聖会の復活を祝った。第一回の万霊会が開かれたのは1950年代で、40年ぶりのことである。たとえば教宗ファン・ヴァン・トン (Phan Van Tong)、玉頭師グエン・ヴァン・ゴイ (Nguyen Van Ngoi)、配師ブイ・ティ・ボン (Bui Thi Bong) 等のように民族解放闘争に戦功があった人のなかには多くのティエン・ティエン・カオダイの信徒がいる。統一民族戦線に参加し、他のカオダイ各派とともに闘争し、ベン・チュエー同時蜂起運動後、連交カオダイ I⁶¹⁾ (1962年)、連交カオダイ II⁶²⁾ (1972年) にまとまった。これは革命の指導に従ったもので、カオダイの18の系派を吸収した。1970年のヴィンロンの戦いでは、2万人の道友 (信徒) が参加した⁶³⁾。要は、同派の多くの信徒が万霊となって祖国の統一と解放に尽力した⁶⁴⁾ことをアピールしたものと解される。その甲斐があつてか、1995年8月9日、ベン・チュエー省チャウ・タイン (Chau Thanh) 県ティ

エン・トゥイ (Tien Thuy) 社のチャウ・ミン (Chau Minh) 聖堂で、ティエン・ティエン・カオダイ (Cao Dai Tien Thien) 教派に法人を公認する政府決定が渡された。カオダイの教派で公認されたのは初めてのことである⁶⁵⁾。

2000年8月12・13日、ベン・チュエー (Ben Tre) 省チャウ・タイン (Chau Thanh) 県ティエン・トゥイ (Tien Thuy) 社チャイン (Chanh) 邑において、第2回ティエン・ティエン・カオダイ (Cao Dai Tien Thien) 人生 (Nhon Sanh) 代表大会が開催された。同大会には236名の代表が参加し、ティエン・ティエン・カオダイ聖会の2000～2005年の常務委員会が選出された。

現在、ティエン・ティエン・カオダイ聖会は、127の聖静 (thanh tinh) 基礎、110の該管委員会 (ban cai quan)、112の治事委員会 (ban tri su) を擁しており、信者は南部の15の省・都市に集中している。ティエン・ティエン・カオダイは、宗教活動のほか、貧しい人々への医療などの社会活動も行なっており、過去5年で、のべ29万792人を無料で診察し、23万5千人に針治療をし、59万6948人に「南薬」を処方した。同大会では、今後5年間の活動方針と憲章修正案が採択された。7人からなる常務委員会が選出され、玉正配師 (Ngoc Chanh Phoi su) のグエン・ヴァン・ギエム (Nguyen Van Nghiem) が委員長に選ばれた⁶⁶⁾。

ティエン・ティエン・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao dai Tien Thien) 常任委員会委員長のグエン・ヴァン・ギエム (Nguyen Van Nghiem) 玉頭師⁶⁷⁾は老衰のため、2003年12月21日に逝去した。享年89歳。ベン・チュエー (Ben Tre) 省チャウ・タイン (Chau Thanh) 県ティエン・トゥイ (Tien Thuy) 社のチャウ・ミン聖堂 (Toa thanh Chau Minh) で葬儀が行われ、埋葬された。玉頭師グエン・ヴァン・ギエム (聖名ゴック・ギエム・タイン Ngoc Nghiem Thanh) は1915年10月1日、ソック・チャン (Soc Trang) 省タイン・チ (Thanh Tri) 県チャウ・フン (Chau Hung) 社チャー・ドット (Tra Dot) 邑の貧しい農家に生まれた。彼は早くにティエ

ン・ティエン・カオダイ教に入信し、聖職者となった。1957年、42歳にしてソック・チャン省のティエン・ティエン・カオダイ教のトップとなった。1962年にはソック・チャン省祖国戦線委員。1976年にはソック・チャン市祖国戦線委員会主席、ハウザン (Hau Giang) 省祖国戦線委員。1994年にはティエン・ティエン・カオダイ大会運動委員会メンバー。2000年にはティエン・ティエン・カオダイ教聖会常任委員会委員長に選ばれた³⁸⁾。

②伝教カオダイ聖会

1997年9月7日、伝教カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao Dai truyen giao) の聖職者団は、ヴェトナム祖国戦線を訪問し、聖会が国家から法人資格が公認されて1年余りになることに謝意を表明した。レ・チュエン (Le Truyen) 祖国戦線主席団常任委員が応対し、聖会の活動を評価し、次のように述べた。「伝教カオダイは民族の内生的宗教である。現在の国の工業化・現代化の事業のなかで、きっと伝教カオダイは、豊かな民・強い国・公平で文明的な社会という目標のために、各宗教・宗派の団結をはかる上で、愛国の伝統と自己の知恵を発揮するであろう」。これに対して、聖職者団を代表して、トゥオン・ハウ・タイン (Thuong Hau Thanh) 教授は、信徒全体とともに愛国的伝統を発揮すると約束した³⁹⁾。この記事より、同派が1996年には法人資格を公認されていたことが分かる。

2001年7月20・21日の両日にわたって、ダナン市にある中央本部 (Trung Hung Buu Toa) において、カオダイ伝教派 (phai Truyen Giao Cao Dai) は第2回 (2001-2005年) 全派人生大会 (Dai hoi Nhan sanh) を開催した。15省の56信徒集団 (ho dao) から選出された303人の代議員が出席した。第1期 (1996-2000年)、カオダイ伝教聖会は「道規」と活動方針を実現し、多くの成果をえた。今大会では改正「道規」と今期の行動計画が採択された。また第2期の聖会評議会を選出し、配師 (phoi su) のトゥオン・ハウ・タイン (Thuong Hau Thanh) 氏を主座に決めた⁴⁰⁾。

③タイニン聖座カオダイ聖会

1997年、アン・ザン省のタイニン派カオダイ教は、20の聖堂、6の仏母の祭殿、約4万人の信徒を擁している。400人以上の聖職者により基礎代表会議が開かれ、上級の大会に参加する代表が選出された⁴¹⁾。

タイニン・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao Dai Tay Ninh) が法人資格を取得したのに際して、掌管評議会人事委員長ゴック・チャイン・タイン (Ngoc Chanh Thanh) 教授は1997年12月15日次のように述べている。「法人になってから聖会は、信徒集団 (ho dao) が教団の憲章にそった活動をするようにするため、訓令39号を公布した。以前、カオダイ教も困難な時期があったが、現在は国家によって援助され、状況はかなりよくなった。しかしまだ疑惑の目をもってカオダイ教をみる幹部もいる。大団結政策のおかげで、「国が榮えてはじめて宗教も明るくなる」と信徒も理解するようになってきた。ここ数年、信徒の生活は大きく変化した。国家は宗教団結政策をとり、カオダイ教も団結を主張している。至尊様 (創唱者) の精神は、「道法一聖会—人生に奉仕すること」であり、それは社会主義と異なるところはない。われわれみんなヴェトナムの家の子である⁴²⁾」。このことから、同派が法人資格を得たことが分かる。掌管評議会人事委員長ゴック・チャイン・タインが文字通りカオダイ教と社会主義が目的とするところが同じと論じている。

また、1998年の新春に、カオダイ教教師グエン・タイン・タム (Nguyen Thanh Tam) は、「1997年4月にタイニン・カオダイ教の代表大会は、憲章と叙任・叙階条例を採択した。その後、政府宗教委員会により正式に『タイニン・カオダイ大道三期普度の教会組織の法人資格を公認』された。掌管評議会52人の聖職者も公認された」と伝えている。グエン・タイン・タム教師は61歳で、掌管評議会副会長。功果、礼生、教友などの聖職をへて、1973年に教師に。1997年、同派の公認後、タイニン省の国会代表に選出された⁴³⁾。国会における最初で唯一のカオダ

イ教徒の代表となった⁴⁴⁾。

1998年9月18日、タイニン聖堂において、配師 (phoi su) トゥオン・ト・タイン (Thuong Tho Thanh) (俗名: Ho Ngoc Tho) が亡くなった。タインはチョ・ロン省 (現在のロン・アン省) 出身で、1910年生まれ。「タイニン聖座カオダイ聖会」掌管評議会会長、ヴェトナム祖国戦線中央委員会委員、タイニン省祖国戦線委員会副主席であった。葬儀は、9月18-21日にタイニン聖座において行われた。同配師は、1927年に入信し、1948年に礼生 (Le sanh) に、1958年に教友 (Giao huu) に、1965年に教師 (Giao su) に、1973年に配師 (Phoi su) となり、九重台の学院上統 (Thuong thong Hoc vien)⁴⁵⁾の職を務めた。1989年から、掌管評議会によって2-5期の会長に選出された⁴⁶⁾。

タイニン・カオダイ聖座 (Toa thanh Cao Dai Tay Ninh) 掌管評議会会長の配師トゥオン・タム・タイン (Thuong Tam Thanh) は、「カオダイ教徒が多数住んでいるタイニンでは、貧困は日に日に後退し、誰もが衣食が足り、子どもは学校に行っている。今日のような生活ができるのは正にヴェトナム共産党が指導してくれたおかげである。……」と述べている⁴⁷⁾。また、「2000年9月には、『ヴェトナム人権法』はヴェトナム人の感情を逆撫でした。かれらは自分のことを解決しないで、他人のことに干渉しているとアメリカを非難した」⁴⁸⁾。ヴェトナムにおいては宗教の自由が侵されているというアメリカの報告書⁴⁹⁾と経済支援とを絡めたキャンペーンに対する反撃の一貫として発言しているように思われる。

2000年7月12日、タイニン・カオダイ教会・掌管評議会は、タイニン・カオダイ教会・副会長で女頭師 (Nu Dau su) のフオン・ゴ (Huong Ngo) の葬儀をとり行った。女頭師フオン・ゴ (俗名ファム・ティ・ゴ Pham Thi Ngo) は、1917年にロン・アン (Long An) 省ロック・ザン (Loc Giang) 社で生まれた。18歳でカオダイ教に入門。国家がタイニン・カオダイ教の法人格を公認した1997年以降、彼女は掌

管評議会・副会長に選出されていた。2000年初頭、当時のカオダイ教における最高位である「頭師 (Dau su)」に叙階された⁵⁰⁾。

2002年10月29-31日、タイニン (Tay Ninh) 省において、タイニン・カオダイ教 (Dao Cao Dai Tay Ninh)・人生 (Nhon Sanh) 代表大会が開催された。全国の343の信徒集団の「人生会 (hoi Nhon sanh)」から選出された1600名の代議員が出席。大会は、過去5年間の掌管評議会 (Hoi dong Chuong quan) の活動を総括し、2002-2007年の活動方針を審議した。また、922名の信徒を「礼生」に昇格させることも決められた⁵¹⁾。

2002年11月23-25日、タイニン (Tay Ninh) 省・タイニン聖座において、タイニン・カオダイ掌管評議会 (Hoi dong Chuong Quan Cao dai Tay Ninh) は、2002-2007年の聖会大会を開催した。過去5年間の活動の総括をし、今後5年間の活動方針を審議した。また922名の「礼生」を叙階し、18名の「教友」を昇格させた。また補正「憲章」を採択し、新しい掌管評議会 (正式メンバー72名、補欠4名) を選出し、会長に配師 (phoi su) のトゥオン・タム・タイン (Thuong Tam Thanh) を再選した⁵²⁾。

2003年7月、タイニン・カオダイ聖座・掌管評議会会長トゥオン・タム・タイン (Thuong Tam Thanh) 配師は、「彼らは他国の人権について判断する資格はない」と題する署名記事を『ニャンザン』に発表し、7月15日にアメリカ下院が通過させた条項に反対した。「ヴェトナムでは信仰の自由が保証されている。カオダイ教では毎年2日、主たる祭日がある。それは陰暦の1月9日と陰暦8月15日で、各地から数万人の信徒が聖堂に集まってくる⁵³⁾」としている。ヴェトナムにあっては宗教の自由を迫害しているとの人権侵害キャンペーンは継続しているようである⁵⁴⁾。逆に言えば、ヴェトナムの宗教政策は実質的にはさして変わってはいないのである⁵⁵⁾。

2003年9月11日 (陰暦8月15日)、タイニン・カオダイ聖座・掌管評議会は、イエン・ジェ

ウ・チー・クン (Yen Dieu Tri Cung) のお祭りを開催し、10万人以上の信徒が集まったようだ。このお祭りは伝統的なお祭りで、タイニン・カオダイ聖座で毎年開催される。この日、信徒は祖廟に赴き、大慈父・大慈母に供物を捧げる。またこの日は仏母が生命力と道徳の生きた源泉、万物の長命を授けてくれる日でもある⁶⁶⁾。

④カウ・コー・タム・クワン・カオダイ派と
ミン・チャン・リー派

2000年3月2～3日、ビン・ディン (Binh Dinh) 省ホアイ・ニョン (Hoai Nhon) 県において、カウ・コー・タム・クワン・カオダイ派 (phai Cao Dai Cau Kho - Tam Quan) は、派の中央教所で第1回全派人生大会 (Dai hoi Nhon sanh) を開催した。8つの省・都市にある20の信徒集団 (ho dao) の人生会から選出された217人の代表が参加した。大会は、憲章、聖職者公選法、2000～2005年の活動方針を採択し、13人から成る両台掌管評議会 (Hoi dong Chuong quan luong dai) を選出。そのトップである正長管 (Chanh Truong quan) には保法フウイン・ヴァン・リエウ (Huynh Van Lieu) 氏が選ばれた。憲章では、聖会が国家によって批准された憲章にそって活動することをうたっている。式には、グウエン・チン (Nguyen Chinh) 政府宗教委員会副委員長も列席し、挨拶した⁶⁷⁾。

2001年10月8日、カオダイ教の2派ミン・チャン・リー (Minh Chan Ly) 派とカウ・コー・タム・クワン (Cau Kho - Tam Quan) 派の代表団が祖国戦線中央を表敬訪問した。ミン・チャン・リー派の代表は太頭師 (thai dau su) 代行のチュオン・ヴァン・ザン (Truong Van Dan) 氏。カウ・コー・タム・クワン派の代表は憲道 (Hien dao) ・副掌管のレ・ゾイ (Le Gioi) 氏。この2派は、2000年から法人資格を公認された。ミン・チャン・リー派は、現在、およそ1万5000人の道友 (信徒) がおり、ティエンザン (Tien Giang) 省に信徒が集中している。それ以外には、中部・南部の15省にちらばっている。派全体で33の聖室と1つの場規

(truong quy) を有している。カウ・コー・タム・クワン派は現在、25の礼拝所を有している。主にはビン・ディン (Binh Dinh) 省とホー・チ・ミン市。89人の聖職者と300人の職員、1万960人の道友 (信徒) がいる⁶⁸⁾。ミン・チャン・リー派とカウ・コー・タム・クワン派が2000年に公認されていることが分かる。

(2) 本々愛国勢力であった宗派

①バン・チン・ダオ・カオダイ聖会

1998年、10月6日、バン・チン・ダオ・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao dai Ban chinh dao) の尚頭師 (Thuong dau su) であるト・ヴァン・フォー (To Van Pho) (聖名トゥオン・フォー・タイン Thuong Pho Thanh) がベン・チュー省で亡くなった。享年76歳。フォー氏は、1920年8月20日に生まれた。ベン・チュー省の貧しい農家の出身で、8歳から修行を始めた。1948年末、ハノイの布教をまかされ、1954年に「教友 (Giao huu)」に、1975年に「教師 (Giao su)」に、1988年に「品配師 (Pham Phoi su)」となり、ハノイの聖室の代表信徒 (Dau ho) になった。1997年のバン・チン・ダオ・カオダイの「人生会 (Hoi Nhan sanh)」では、バン・チン・ダオ・カオダイ聖会常務委員長に選ばれ、その後、頭師 (Dau su) に推挙された。同氏はカオダイ教の進歩のために尽くした。特に1994年からは、バン・チン・ダオ・カオダイ聖会を進歩させ、民族と結びつけ、政策・法を遵守し、「栄える国、明るい宗教 (Nuoc Vinh - Dao Sang)」を実現するように努力してきた。同氏は、カオダイ教の2人の指導者であった教宗 (Giao tong) のグウエン・ゴック・トゥオン (Nguyen Ngoc Tuong) と掌法 (Chuong phap) のカオ・チュウ・ファット (Cao Trieu Phat) の愛国的・進歩的思想の直接的影響を受けている。同氏は、8月革命後から愛国活動に積極的に参加し、統一民族戦線大会運動委員会委員 (1955年)、南北関係常務委員会委員 (1958年)、ハノイ市祖国戦線常務委員会委員、ハイ・バー・チュン区人民評議会代表 (第1期～14期) を務めた⁶⁹⁾。

10月31日、バン・チン・カオダイ (Cao Dai ban chinh) 聖職者団はベトナム祖国戦線中央委員会を訪問して、尚正配師 (Thuong chanh phoi su) のゴック・フォン・タイン (Ngoc Phon Thanh) 団長は、亡くなった尚頭師 (Thuong dau su) のトゥオン・フォー・タイン (Thuong Pho Thanh) すなわち俗名トー・ヴァン・フォー (To Van Pho) の葬儀について報告し、祖国戦線の配慮に対して感謝の意を表した。また、配師は宗教生活に関する幾つかの問題を取り上げた⁶⁰。

また、1999年6月18日、ベン・チェー (Ben Tre) 省のバン・チン・ダオ・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao Dai Ban Chinh Dao) 常任委員会顧問の上生 (Thuong sanh) チャン・チー・タイン (Tran Chi Thanh) 氏が逝去した。享年81歳。葬儀は6月19日から23日まで5日間とりおこなわれた⁶¹。

2000年2月12日、ベン・チェー聖堂 (Toa thanh Ben Tre) にて、バン・チン・ダオ・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao dai Ban chinh dao) は、故ト・ヴァン・フォー (To Van Pho) 尚頭師 (聖会常任委員長) が国家から独立勲章二等を追贈された授賞式を開催した。式には、レ・クワン・ヴィン (Le Quang Vinh) 政府宗教委員長、フウィン・ヴァン・ベ (Huynh Van Be) ベン・チェー省人民委員会主席などが列席した⁶²。

バン・チン・ダオ・カオダイ (Cao dai Ban chinh dao) 聖会・常務委員会によれば、2000年10月5日に聖会常務委員会副委員長の尚頭師 (Thuong Dau su) チャウ・ヴァン・フォン (Chau Van Phon) 氏が逝去した。享年81歳。葬儀は、10月5～9日に行われる。葬儀委員長は頭師代行 (quyen Dau su) のタイ・リー・タイン (Thai Ly Thanh) 氏⁶³が務めた。連続3件の弔問外交であった。

2002年11月17日・18日、ベン・チェー聖堂 (toa thanh Ben Tre) おいて、バン・チン・ダオ・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao dai Ban chinh dao) は、第1期 (1997-2002年) の活動を総括

し、第2期 (2002-2007年) の活動方針を決める会議を開催した。会議は補正「憲章」を採択し、第2期の常任委員会 (9名) を選出した。委員長には尚正配師 (Thuong Chanh phoi su) のドアン・ヴァン・トゥック (Doan Van Thuc) が選出された⁶⁴。

2003年9月3日、ヴェトナム祖国戦線本部において、ファム・テー・ズエット主席は「バン・チン・ダオ・カオダイ教聖会 (Hoi Thanh Cao dai Ban Chinh dao)」と「バック・イ・カオダイ聖会 (Hoi Thanh Cao dai Bach Y)」の代表団と面会した。代表団は27名からなり、100万人以上の信徒を擁する2つの宗派を代表している。同日、代表団は党中央大衆運動委員会事務所において、トン・ティ・フォン (Tong Thi Phong) 党中央書記・大衆運動委員長と面会した⁶⁵。

②ミン・チョン・ダオ派

「ミン・チョン・ダオ・カオダイ (Cao Dai Minh Chon Dao)」のかつての首長であったカオ・チエウ・ファット (Cao Trieu Phat) 氏は、1939年にバック・リュウ省の人民解放委員会に参加した。1946年10月、かれはヴェトミンの国会議員になった。1947年、カオダイ教の12の宗派を統一するために「カオダイ救国会」⁶⁶を結成し、解放区であるドン・タップに「聖会」を設立した。ジュネーブ協定調印後、彼は北部に行き、1年後にハノイで亡くなった。

2001年3月8・9日、カ・マウ (Ca Mau) 省・トイ・ビン (Thoi Binh) 県・ホー・ティ・キー (Ho Thi Ky) 社のゴック・サック (Ngoc Sac) 聖堂において、ミン・チョン・ダオ (Minh Chon dao) 派は、2001～2005年期の人生代表大会 (Dai hoi dai bieu Nhon Sanh) を開催した。49の信徒団体 (ho dao) の人生会 (Hoi Nhon sanh) と宗派中央機関から選ばれた358人が参加し、宗派の常任委員長には太頭師 (Thai Dau su) のチャン・ドゥック・タン (Tran Duc Tang) 氏が選ばれた。採択された憲章では次のように書かれている。「国土の建設と防衛において、先輩諸氏の事業を継承するために、ミ

ン・チョン・ダオ派は、宗教に奉仕し国を愛する伝統をさらに発揮する⁶⁷⁾。

2002年12月18日、ハウ・ザン・ミン・チョン・ダオ・カオダイ (dao Cao dai Minh Chon dao Hau Giang) の護法ゴ・タム・ダオ (Ngo Tam Dao) が逝去した。享年85歳であった。護法 (Ho phap) で協天台掌管 (Chuong quan Hiep Thien Dai) のゴ・タム・ダオ氏は、1919年にバック・リュウ (Bac Lieu) 省 (現在のカマウ省) カ・マウ (Ca Mau) 郡アン・スウエン (An Xuyen) 社の貧しい農家に生まれ、15歳で、教師 (Giao su) ブイ・フウ・タイン (Bui Huu Thanh) とともにミン・チョン・ダオ・カオダイに入門した。1947年、「12派救国カオダイ (Cao dai Cuu quoc 12 phai)」に参加。その後、バック・リュウ省「救国カオダイ」の責任者に選ばれる。1954年、「救国カオダイ」は解散し、氏はカ・マウに戻り、ミン・チョン・カオダイ派を再建。1954年10月14日の「人生大会 (Dai hoi Nhon sanh)」において、協天台掌管に選ばれた。1996年の「人生大会」で引き続き協天台掌管に再選された。氏は、2人の掌法 (chuong phap) チャン・ダオ・クウアン (Tran Dao Quang) とカオ・チエウ・ファット (Cao Trieu Phat) の進歩的愛国思想に深く影響をうけ、八月革命以前から愛国活動に参加したカオダイ教聖職者の一人であった。カ・マウ郡戦線常任副主任 (1946年)、カ・マウ郡ヴェトナム国民連合会総書記 (1947年)、バック・リュウ省「12派救国カオダイ」担当リエン・ヴィエト戦線総書記 (1951年)、西南部民族解放戦線委員会・副主席兼総書記 (1961年)、ミン・ハイ (Minh Hai) 省・ヴェトナム祖国戦線委員会主席、ヴェトナム祖国戦線中央委員 (1976-1988年) を歴任した⁶⁸⁾。

2002年12月19日、カントー (Can Tho) 省・カントー市において、「ハウ・ザン・ミン・チョン・ダオ・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao dai Minh Chon dao Hau Giang)」は護法ゴ・タム・ダオ (Ngo Tam Dao) の弔問式を行った。12月20日、カントー市での追悼式の後、聖会は

遺体をカ・マウ (Ca Mau) 省・トイ・ビン (Thoi Binh) 県・ホー・ティ・キー (Ho Thi Ky) 社にあるゴック・サック (Ngoc Sac) 聖堂に移し、弔問式をおこなった。翌12月21日、ゴック・サック聖堂において、カオダイ教の護法 (協天台の最高位) の儀式に則って、「入塔式」がしめやかに行われ、数千人の信徒が最後の見送りをした⁶⁹⁾。

(3) 公認未定の宗派

①チュウ・ミン・カオダイ聖会

1996年4月30日・5月1日の2日間、カントー省チャウ・タイン (Chau Thanh) 県タン・フー・タイン (Tan Phu Thanh) 社において、ロン・チャウ・チュウ・ミン・カオダイ (Cao Dai Chieu Minh Long Chau) 聖会中央は、第一回人生 (Nhon Sanh) 大会を組織した。5000人以上の信徒が参列。ロン・チャウ・チュウ・ミン・カオダイは、ゴー・ミン・チャウ (Ngo Minh Chau) によって、1926年に創立された大道三期普度に属す派で同派には党の指導幹部となった多くの人がいる。現在も、政府に協力的である⁷⁰⁾。

2001年4月5・6日、カオダイ教チュウ・ミン派 (Cao Dai Chieu Minh) は、カントー (Can Tho) 省・チャウ・タイン・アー (Chau Thanh A) 県・タン・フー・タイン (Tan Phu Thanh) 社にあるロン・チャウ・チュウ・ミン・カオダイ聖会 (Hoi thanh Cao Dai chieu minh Long Chau) において、2001-2005年任期の人生代表大会 (Dai hoi dai bieu nhon sinh) を開催した⁷¹⁾。200人あまりの人生代表 (dai bieu nhon sinh) が参加。大会は、第1期の「内律」にかわる憲章を採択し、指導部 (九重台、協天台、常任委員会) を選出した⁷²⁾。

②真理カオダイ派

2000年1月20、21日の両日、真理カオダイ派 (phai Cao Dai Chon ly) は、ティエン・ザン (Tien Giang) 省ミー・ト (My Tho) 市のティエン・ザン聖堂において、第1回全派「人生大会 (Dai hoi Nhon sanh)」を開催した。15の省・都市における30の信徒集団 (ho dao) の代表100人

近くが列席。グウエン・ミン・チュエット (Nguyen Minh Triet) 政治局員や党中央大衆運動委員長らの祝辞や花束が届けられた。大会では、憲章の草案と活動方針が承認され、十五靈灯委員会 (Ban Thap ngu Linh dang) が選出された。また、13人から成る掌管評議会と5人の掌管評議会常務委員会を選出した。掌管評議会の会長は太頭師 (Thai Dau su) のヴォー・タイン・フック (Vo Thanh Phuc) である⁷³。

おわりに

1975年の民族の統一と解放は、カオダイ教徒にとっては3度目の受難の幕開けであった。解放後の1977から1997年に信徒の半数以上を擁する最大教派であるタイニン派が公認を得るまでの約20年間は、祖国戦線を中心とする掌管評議会により教団管理がなされた。死者や逮捕者を出し、宗教施設は没収され、宗教的な行為は事前の届け出と承認が必要とされた。それだけでは済まず、カオダイ教の扶乩による神仙の意思を伝える降霊のあり方も、迷信という判断で否定された。その結果、『法正伝注解』にある「九重台職位の公選律 (Luot cong cu Chuc Sac Cuu Trung Dai)」に基づく職位の認定ができなくなり、教団指導層が時の経過の中で空席となっていった。降霊による神意を伺い、教団の立法府とも解されていた霊媒を中心とした協天台 (Hiep Thien Dai) も機能しなくなってしまった。そして、さらに1997年の公認に当たり、「九重台職位の公選律」によらずに掌管評議会に職位に人事権を委ねてしまったがために、カオダイ教の祭儀や歴史、教理に暗い祖国戦線・現ベトナム政府の意向に明るい人たちが大挙してカオダイ教の教団行政を行う九重台の九つの職位を占めることとなった。その意味では、現在のカオダイ教は、施設は同じであっても解放前と比べ、大きく変質してしまっただけと言わざるを得ない。解放前のカオダイ教はベトナムにはなく、むしろ現在はアメリカやオーストラリア、フランス、カナダ等に健在であり、インターネット上の、バーチャル教団となって発展しつ

つある。それゆえ、ベトナム国内のカオダイ教徒が海外のカオダイ教徒に支援を求めた。すなわち1997年9月、カオダイ教の聖職者グループによって書かれた『白い服の人』というタイトルの著作は、海外のカオダイ教徒の援助を求めたものであった。その支援の錦の御旗が「宗教の自由に対する迫害」ということであったように思われる。奇しくも、1997年の翌年国連による宗教的寛容に関する調査やアメリカ国務省による「世界の宗教の自由に関する報告書」にベトナムでの宗教の迫害の内容が詳述されるようになり、アメリカやEUを中心に具体的な圧力として、アメリカでは国際宗教自由法が制定され、宗教的な寛容を認めない国に対する経済的な支援のあり方を制限する法整備までが進んだ。その結果、徐々にではあるがベトナム政府も緩やかな宗教緩和策を表面上は採らざるを得なくなった。結果として、カオダイ教はついに共産党によって課せられた条件の下で公認を得て、宗教活動の再生と教勢の拡張を少しずつ手に入れているという状況にあると思われる。

1975年のベトナムの解放は社会革命であったが、上述したように文化革命を現在でも進行形で進展させているのである。仏教やカトリックほどではないにしてもまだまだカオダイ教は、緩やかな公認が進んでいる。中部ベトナムを中心としたプロテスタントへの弾圧ほど露骨でも惨くもない。

カオダイ教80年の歴史は3度に及ぶ受難の歴史であったと、冒頭に述べた。その都度、カオダイ教徒たちは外部勢力に依存しつつ教団の独立性を確保しようとした。最初がフランス植民地行政からの迫害に対し日本の力を利用し、二番目がゴ・ディン・ジエム (Ngo Dinh Diem) 政府からの迫害に対して、政治的な考えから頼る対象が分裂し、アメリカや解放勢力に依存しようとした。そして三度目の時期が解放後の現在のベトナム政府による迫害に、国外に逃れたカオダイ教徒と結びながら、アメリカや国連を中心とした欧米の力を借りて、パワー・バラ

ンスをとろうとしている。カオダイ教の歴史は文字通り大道三期受難である。言い換えれば宗教の自由・信仰の自由を求め、三度戦った歴史でもある。ヴェトナム政府による、宗教の信徒への抑圧はなくなった訳ではない。しかし、ヴェトナムは生き残るために経済を改革する必要があり、人権の改善を求める外部からの圧力がヴェトナムを「孤立主義」に導くことはない。しかし対外貿易だけではヴェトナムにおける宗教の自由を促すことにはならない。経済改革・対外開放とそれに付随する国内の社会政治コストについてのヴェトナム政府のアンビヴァレンスは、ヴェトナム政府の人権政策が二面性をもっていることの説明にしばしば用いられる。一方で経済改革・対外開放の必要性を認めながら、政治的・社会的コントロールを緩めようとはしていない。実質的・体系的な改善はみられない。実際、ヴェトナム当局はコントロールを拡大しようとしている。2003年1月の共産党決議は、宗教組織・宗教活動へのコントロールを拡大しようとしたものである。決議では、政府は宗教の国家管理を増強しなければならない、としている。また国家公認の宗教団体内に共産党の細胞を樹立することを求めている。

ヴェトナムは対外貿易・外国投資・経済援助を必要としている。それゆえ人権問題での批判がヴェトナムとの接触に害を与えるという懸念をする必要はほとんどない。逆に、人権問題で声を出しておかないと、ヴェトナムに政治・社会改革をすすめない言い訳を与えてしまう。アメリカ国務省ですら宗教的自由に関する「要警戒国」とする1998年の国際宗教自由法にヴェトナム政府は従うことを拒否した。米越通商協定が2001年に批准されて以来、ヴェトナムの宗教的自由は悪化している。アメリカ国務省自身も「国際宗教自由報告」(2003年12月)で、ヴェトナムの宗教的自由の状況は変化がなく、一部では前年より悪化していると結論している。今、カオダイ教徒は頼るべき外部圧力に見放されつつあるのか。自立を求められているのかを向後も見守りたい。

註

- (1) 扶鸞は扶乩ともいう筆記具(乩筆, 柳乩)を用いて、文字による神仙の乩示を得る卜占の方法。一般には術士(鸞手)が1人または2人で乩筆を持って精神を統一して念ずると乩筆が激しく動き出して、時折砂盤もしくは卓上に字形を描く。1字をなすごとに唱鸞が読み上げ、それを録鸞が記録する。このようにしてできあがった詩文を乩文といい、神仙の乩示であるとする。乩筆が文字を書き出すのは、いわゆる自動現象 automatism によるものとされる。乩筆に憑ってくるのは神仙だけではなく、歴史上または伝説上の人物、近親の死者など多様である。カオダイ教の聖典にヴィクトル・ユーゴや孫文が登場するのはこの故である。詳しくは、酒井忠夫『中国善書の研究』弘文堂、可児弘明「扶鸞雑記」『史学』第45巻-1号を参照されたい。
- (2) 2002年8月2日、ハンガリーのブダペストで行われた宗教的自由を求める国際協会(IARF)第31回世界大会でカオダイ海外使節総裁カン・チャン(Canh Tran)氏の「カオダイ教の歴史と哲学の概要」と題した講演録を参照されたい。
- (3) 世界中のカオダイ教の支部は、アメリカ合衆国、カナダ、フランス、オーストラリアにある。また下記のURLにて、その緻密なネットワークの概要を知ることができる。特に、Sydney Centre for Studies in Caodaism は、カオダイ教関連のBibliography/References/Linksが整っており、研究者には充実した環境がネット上に準備されている。
 - インターネット上のカオダイ書院
<http://www.thuviencaodai.com/thuvien>
 - カオダイ教理専門誌
<http://www.caodaigiaoly.de>
 - カオダイ文化会 <http://caodai.org.au>
 - カオダ教ネット <http://www.caodaism.net>
 - カオダイ教組織 <http://caodai.org/>
 - カオダイ教共同体 <http://caodai.com/>
 - カオダイ・ネット <http://caodai.net/>
 - カオダイ青年共同体
<http://www.caodaiyouth.com/>
 - カオダイ「天理宝座派」組織
<http://www.thienlybuutoa.org>
- (4) 閣僚評議会議定69号「宗教活動に関する規定」の全文は、東京外国語大学助教授今井昭夫氏による「ベトナムの宗教動向」の中に翻訳されてある。なお、このサイトには93年以降の

ヴェトナムの宗教動向が翻訳されており、その労作は現代ヴェトナム宗教研究をする上では必見のデータベースになりつつある。

<http://www3.osk.3web.ne.jp/~vietnam/shuukyuu.htm>

- (5) 『大団結』35・36合併号(1994年8月27日～9月9日)によれば、第4期ヴェトナム祖国戦線中央委員会名簿のなかの宗教関係者の構成員組織(総数22名)が次のように記載されている。
- (a)宗教組織代表 1. ヴウオン・ディン・アイ (Vuong Dinh Ai) 神父：カトリック団結委員会副主席。2. ホアン・キム・フック (Hoang Kim Phuc) 牧師：プロテスタント総聖会総会長。3. ティック・チー・ティン (Thich Tri Tinh) 和尚：仏教教会中央評議会主席。
- (b)個人(総数119名) 1. ヴウオン・ディン・ビク (Vuong Dinh Bich) 神父：ホーチミン市。2. グウエン・コン・ザイン (Nguyen Cong Danh) 神父：ホーチミン市。3. ティック・ティエン・ズエン (Thich Thien Duyen) 上座：クアンナム・ダナン省仏教教会。4. グエン・タン・ダット (Nguyen Tan Dat) 氏：アンザン省ホアハオ仏教。5. グエン・タン・コア (Nguyen Tan Khoa) 神父：クアンナム・ダナン省。6. ディン・ニュー・ラン (Dinh Nhu Lang) 神父：ナムハー省。7. ティック・ヌー・ゴアット・リエン (Thich nu Ngoat Lien) 尼師：ホーチミン市。8. ターイ・ヴァン・ナム (Thai Van Nam) 氏：ホアハオ仏教, ヴィンロン。9. ズウオン・ニョン (Duong Nhon) 上座：ソックチャン省。10. グエン・ティ・グエット (Nguyen Thi Nguyet) 氏：バン・チン (Ban Chinh) カオダイ教配師。11. ファン・ヒュー・フック (Phan Huu Phuc) 氏：ティエン・ティエン (Tien Thien) 聖会協天台監道。12. ティック・ドゥック・フオン (Thich Duc Phuong) 和尚：トゥアティエン・フエ省。13. ティック・チー・クアン (Thich Tri Quang) 上座：ホーチミン市。14. チャン・ドゥック・タン (Tran Duc Tang) 氏：ハウザン地方ミン・チョン・ダオ (Minh chon dao) カオダイ聖会配師。15. ティック・フォー・トゥエ (Thich Pho Tue) 和尚：ハタイ省。16. キム・クウオン・トゥー (Kim Cuong Tu) 和尚：ハノイ市。17. トゥオン・トー・タイン・ホー・ゴック・トー (Thuong Tho Thanh Ho Ngoc Tho) 配師：タイニン聖堂カオダイ聖会。
- すなわち、1994年段階で祖国戦線の組織代表

22名中3名(13.6%),個人119名中17名(14.3%)が公認宗教代表である。ちなみに、カオダイ教徒は個人が4名であるので、宗教者中では23.5%,祖国戦線中央委員会の個人総数の中では3.36%の発言権が反映されることが形式的には認められているということである。

- (6) 1999年9月3日に国会常務委員会を通過した「公益労働義務の法令」では、18～45歳までの男性と18～35歳までの女性は、毎年10日間の公益労働義務をもつ。ただし、以下に掲げる人はこの義務を免除されると規定されている。①人民軍隊と人民公安に所属する幹部、戦士。②山岳地帯、辺境地、島嶼部に働いている国防・公安の労働者・職員。③第一等予備役に登録されている退役軍人。④傷病兵およびそれに準じる人。⑤烈士の父母、配偶者。烈士を養育する功績のあった人。⑥職業的な宗教の聖職をもっている人。⑦心身の病気にかかっている労働することができない人。⑧労働能力が21%以上に衰退している人。
- (7) アメリカ合衆国國務省「国際宗教的自由レポート」ヴェトナム編の年次報告書は、下記のURLを参照されたい。例えば2003年版であれば、<http://www.state.gov/g/drl/rls/irf/2003/24327.htm>。
- ヴェトナムの主要な宗教についての現状を網羅的に記してあり、現代ヴェトナム宗教の状況を把握するためには、必見のデータベースの1つである。
- (8) 『ニャンザン』(bao nhan dan) 2003年5月30日によると、5月13日、アメリカの国際宗教自由委員会は、過去1年(2002年5月1日～2003年4月30日)の世界における宗教的自由の状況に関する年次報告書を公表した。その中では、「ヴェトナムにおける宗教状況が捏造されており、わが党・国家・人民を誹謗中傷している。ヴェトナムにおいて信仰の自由と合法的な宗教生活が保証され実現されている事実は、上の誹謗中傷とでっち上げを反駁している」とし、グエン・ドゥック・ルー (Nguyen Duc Lu) 博士の「ヴェトナムにおける信仰・宗教の自由権の実現」と題する論文を掲載している。以下はその概要。「ヴェトナム民主共和国が成立した翌日の1945年9月3日、新政府の最初の会合で、ホー・チ・ミン主席は「信仰の自由、信徒・非信徒の団結」を宣言することを提案した。共産党第9回大会では、「信仰・宗教は一部の人民の精神的需要である」とした。2003年3月12日

には、党中央委員会は宗教工作に関する決議を出し、宗教の団結と信仰の自由の尊重を強調した。ヴェトナム・カトリック教会は国家によって1980年に公認され、「ヴェトナム仏教教会」は1981年に公認された。「(北部) 福音聖総会」は1957年、「(南部) ヴェトナム福音聖総連会」は2001年に公認された。1995年から現在までに、カオダイ教の多くの宗派が公認された。タイニン (Tay Ninh) 派、バン・チン・ダオ (Ban Chinh dao) 派、ミン・チョン・ダオ (Minh Chon dao) 派、「中越カオダイ伝教会 (Hoi Truyen giao Cao Dai Trung-Viet)」など。「ホアハオ仏教代表委員会 (Ban Dai dien Phat giao Hoa Hao)」も1999年に公認された。ドイモイ期に入ってから、特に1990年から現在まで、ベトナムにおける宗教生活は活発化している。全国で現在、1万4321の寺院・静舎・静室・念仏堂がある。カトリックの教会は6000。プロテスタントは500。カオダイ教の聖室は1000。ホアハオ教寺院は200。イスラム教の聖堂は89。数万のディン (dinh), デン (den), ミュウ (mieu), フー (phu) などが存在する。と記している。この数値を、国連宗教特別調査官 Abdelfattah Amor 氏のレポート (Civil on Human Rights, Including The Question of Religious Intolerance, 1999) に書かれている「ベトナムの宗教の現況」(1996年のベトナム政府宗教委員会のデータ) に記されている宗教施設の数値と比較すると、少しづつではあるが短期間での増加が見られる。すなわち、ヴェトナム全国における宗教の信徒数の総数は、1520万3132人。内訳は、仏教：737万8417人。カトリック：495万2605人。プロテスタント：40万3238人。イスラム教：9万3174人。カオダイ教：112万2827人。ホアハオ教：125万2906人。次いで、宗教の聖職者数の内訳では、仏教：27,884人。カトリック：1万4492人。プロテスタント：549人。カオダイ教：5608人。イスラム教：734人。ホアハオ教：61人。さらに、礼拝所の数では、仏教：14,012ヶ所。カトリック：6,003ヶ所。プロテスタント：437ヶ所。イスラム教：71ヶ所。カオダイ教：896ヶ所。ホアハオ教：115ヶ所。

(非政府系の1998年のデータでは) 仏教：国民の80%。カトリック：600万人。プロテスタント：70万人。イスラム教：5万人。カオダイ教：300万人。ホアハオ教：200万人。

(9) 『ニャンザン』2004年2月10日「ホー・チ・ミン主席と宗教」。

- (10) 「ヴェトナム共産党7中総決議」(2003年1月) 全文と同年3月の「ヴェトナム共産党第9期7中総決議 宗教工作について」全文は、上述した東京外国語大学助教授今井昭夫氏による「ベトナムの宗教動向」の中に翻訳されてある。
- (11) Presentation by Dr.Sergei Blagov at IARF 31 World Congress in Budapest, "Caodaism in Vietnam: A Case Study of the Communist Government's Policy Towards Religions", August 2, 2002.
- (12) ヴェトナム国家・社会・人文科学センター、宗教研究院『現在のヴェトナムの宗教・信仰について』社会科学出版社刊 (Trung Tam Khoa Hoc Xa Hoi va Nhan Van Quoc Gia, Vien Nghien Cuu Ton Giao, Dang Nghiem Van chu bien, "Ve Ton Giao Tin Nguong Viet Nam Hien Nay", Nha Xuat Ban Khoa Hoc Xa Hoi), 1996, pp.136~137 による。
- (13) 上述したセルゲイ・ブラゴフ講演。
- (14) 同上。
- (15) Le Trung Cang: "Plight of the Cao Dai Church", <http://www.fva.org/1299/story05.htm>.
- (16) 上述したセルゲイ・ブラゴフ講演。
- (17) 護法やカオダイ教各職位の権能については、拙稿『『法正伝注解』訳考〔1〕——カオダイ教聖典の考察——』1986, 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所『研究年報』第21号, 拙稿『『法正伝注解』訳考〔2〕——カオダイ教聖典の考察——』1988, 東洋大学アジア・アフリカ『文化研究所研究年報』第23号, 拙稿「カオダイ教の『新律』について——カオダイ教聖典の考察——」1986, 立教大学史学会『史苑』第45巻第1号 (通巻134号) を参照されたい。
- (18) 上述したセルゲイ・ブラゴフ講演。
- (19) 『ニャンザン』1994年6月3日。
- (20) 拙稿「1946~1948年時のカオダイ教(1)——国教への夢——」立教大学史学会『史苑』第60巻第1号 (通巻163号), 1999年10月, pp.67-69。
- (21) Dang Nghiem Van, Nguyen Duy Hinh, Dang The Dai, Nguyen Quoc Tuan, Le Trung Vu: "Buoc dau tim hieu DAO CAO DAI", Trung Tam Khoa Hoc Xa Hoi va Nhan Van Quoc Gia Vien Nghien Cuu Ton Giao, Nha Xuat Ban Khoa Hoc Xa Hoi, Ha Noi, 1995, pp.143-144.
- (22) Ibid. p.132. 起源は1926年4月12日に分派した Ngo van Chieu の派。
- (23) Ibid. p.133. 起源は1928年 Tran Dao Quang が Toa Thanh Tay Ninh から分離し、現在の Minh

- Hai 省に属する当時の Rach Gia 省 Phuoc Long 郡 Phuoc Long 社に Ngoc Phuoc 聖室を建てたのが始まり。
- (24) Ibid. p.133. Le Van Trung, Pham Cong Tac, Cao Hoai Sang 等が領導してきたカオダイ教本流宗派。
- (25) Ibid. p.134. カオダイ教開教署名人28人の1人である Nguyen Ngoc Tuong が1934年3月に Toa Thanh Tay Ninh から分離して創った宗派。Ben Tre 派ともいう。
- (26) Ibid. p.134. Nguyen Huu Chinh が Tay Ninh から分離して建てた宗派。
- (27) Le Trung Cang: "Plight of the Cao Dai Church"
- (28) 拙稿『『法正伝注解』訳考 [1] ——カオダイ教聖典の考察——』1986, 東洋大学アジア・アフリカ文化研究所『研究年報』第21号,
Dang Nghiem Van, Nguyen Duy Hinh, Dang The Dai, Nguyen Quoc Tuan, Le Trung Vu: p.184, カオダイ教の九重台 (Cuu Trung Dai) の聖職者の階層制度は、定数 (男) も決められている。教宗 (Giao Tong) : 1人, 掌法 (Chuong Phap) : 3人, 頭師 (Dau Su) : 3人, 正配師 (Chanh Phoi Su) : 3人, 配師 (Phoi Su) : 33人, 教師 (Giao Su) : 72人, 教友 (Giao Huu) : 3000人, 礼生 (Le Sanh) である。
- (29) Le Trung Cang: op. cit.
- (30) Dang Nghiem Van, Nguyen Duy Hinh, Dang The Dai, Nguyen Quoc Tuan, Le Trung Vu: op. cit. p.188
一般的にカオダイ教では、大会には上会、聖会、人生会、万霊会の4つがある。
- (31) Ibid. p.140.
- (32) Ibid. p.140-141.
- (33) 『大団結』(dai doan ket) 9号, 1995年3月4-10日。
- (34) 『大団結』4号, 1996年1月12日。開道71周年に際して、カントー省のカオダイ7派の聖職者150名が集まった。二つの抗戦でカオダイ各派は多くの人が革命に参加した。20名の聖職者が黨員になり, 311名の聖職者がカオダイ救国など, 革命団体に参加し, 高級幹部になった。59家族が烈士の家族と公認され, そのうち7人の母親が「英雄的ベトナムの母」と国家より認定された。というような例もある。
- (35) 『大団結』42号, 1995年8月25日。
- (36) 『ニャンザン』2000年8月15日。
- (37) 頭師 (Dau Su) には, 玉頭師 (Ngoc Dau Su), 太頭師 (Thai Dau Su), 尚頭師 (Thuong Dau Su) 各1人がいる。
- (38) 『ニャンザン』2003年12月24日。
- (39) 『大団結』1997年9月18日。
- (40) 『ニャンザン』2001年7月24日, 『大団結』2001年7月25日。
- (41) 『大団結』27号, 1997年4月3日。
- (42) 『大団結』1997年12月15日。
- (43) 『ニャンザン』1997年6月23日によれば, 第10期国会 (定数450議席) の立候補者664人の名簿を公示した。選挙区は175。立候補者リストの宗教欄の分類は, 以下の通り。ハノイ市 第3区: 仏教1人。ホーチミン市 第1区: 仏教2人, 第2区: 仏教2人, 第5区: カトリック1人。バックザン省 第3区: 仏教1人。ナムディン省 第4区: カトリック2人。タインホア省 第3区: カトリック1人。ゲアン省 第3区: カトリック1人。トゥアティエン・フエ省 第1区: 仏教1人。ニントゥアン省 第2区: パラモン教1人。ピントゥアン省 第1区: パラモン教1人。タイニン省 第1区: カオダイ教1人, 第2区: カオダイ教2人。ロンアン省 第1区: 仏教1人。アンザン省 第4区: イスラム教1人, 仏教1人。チャーヴィン省 第1区: 仏教1人。第2区: 仏教 (クメール) 2人。カントー省 第2区: 仏教 (クメール) 1人。総計24人。内カオダイ教徒の立候補者3人。よって, 当選したものと想われる。
- (44) 『大団結』新春号, 1998年1月。
- (45) Dang Nghiem Van, Nguyen Duy Hinh, Dang The Dai, Nguyen Quoc Tuan, Le Trung Vu: op. cit. p.200. 学院は行政系統である九院の一つで, 職色 (chuc sac) のための教学, 訓練機関。
- (46) 『大団結』1999年9月22-24日号, 『ニャンザン』9月22日。
- (47) 『ニャンザン』2000年2月9日。
- (48) 『ニャンザン』2001年9月15日。
- (49) <http://usinfo.state.gov/regional/ea/vietnam/rfrviet.htm>, September 5, 2000.
アメリカ国務省は, 9月5日, 「国際的な宗教の自由に関する年次報告2000年」を発表した。カオダイ教を中心に抜粋すると, 「1998年なかば~1999年なかばと宗教の自由の状況に大きな違いはない。ただし若干の改善が見られる。当局は, 『言論・出版・宗教の自由を乱用した』者に対して最大で3年の実刑を科すことのできる刑法の規定を用いて非合法に宗教活動を行なっているものを投獄している。《セクション1: 宗教の自由に関する政府の政策》過去5年間,

公認宗教団体の信徒により大きな自由を与えることが流れになっており、仏教やカトリックの多数の信徒はこれにより恩恵を受けている。信仰の自由を規定している国の法令は、地方によって適用が異なっている。ホーチミン市などでは比較的自由度が高いのに比べ、北西部や中部高原、中部海岸の諸省などでは未だに厳しい。カオダイ教は、政府宗教委員会の見積もりでは信徒数は110万人であるが、非政府組織では200～300万人としている。活動が活発なのは、タイニン (Tay Ninh) 省、ホーチミン市、メコン・デルタ、ハノイ市である。1999年4月、政府は宗教に関する議定を制定し、以前拘束されたり収監された人は宗教活動を再開する場合には特別の許可を得なければならないとした。また、1954年と1975年以降、国家によって接収された土地や資産を宗教組織は返還要求できないとした。この規定にもかかわらず、政府は一部の接収資産を返還してきた。カオダイ教とホアハオ教の大半の資産も返還されていないという。刑法では、「宗教の信仰者と非信仰者との区別」を助長することによって「国民的結合をくつがえそうとする」と定義の曖昧な罪が規定されている。裁判なしで3年までの実刑が規定されている「言論・出版・宗教の自由を乱用した」罪が、宗教の活動に対して適用されていることもある。これらは、「世界人権宣言」と「市民的及び政治的権利に関する国際規約」の「宗教の自由の権利」に反する。司法制度の透明性が殆どないため、正確な数字を入手するのはきわめて困難だが、2000年なかばの時点で、少なくとも13人の宗教的拘留者がいる。また、同時点で、少なくとも16人の宗教的囚人がいる。内カオダイ教徒は5人である。ホーチミン市において、異なる宗教の間での非公式の対話がなされはじめている。1999年10月、ホーチミン市に活動基盤をおく4人の宗教指導者が、ベトナム共産党に対し、宗教の自由を尊重し、政教分離を確立するよう求める公開の共同請願書に署名した。その4人とは、統一ベトナム仏教教会のティック・クアン・ド和尚、カトリックのレデンプトール会士の司祭チャン・ティン (Chan Tin)、ホアハオ教の指導者レ・クアン・リエム (Le Quang Liem)、カオダイ教の指導者チャン・クワン・チャウ (Tran Quang Chau) である。」

(50) 『ニャンザン』2000年7月13日。

(51) 『ニャンザン』2002年11月1日。

(52) 『ニャンザン』2002年11月26日。

(53) 『ニャンザン』2003年7月23日。

(54) 「国際宗教自由報告2003年」アメリカ国務省民主・人権・労働局 (2003年12月18日発行) <http://www.state.gov/g/drl/rls/irf/2003/24327.htm> この報告がカバーしている期間は、基本的に2002年7月から2003年6月までの時期。カオダイ教に関する記述のみを抄録すると以下のごとくである。〈セクション1：各宗教の教勢〉カオダイ教：ベトナム政府の統計では110万人。あるNGO筋によれば、200～300万人。最も盛んなのはタイニン (Tay Ninh) 省、ホーチミン市、メコンデルタ。13の教派があり、最大はタイニン派。ティエン・ティエン (Thien Tien) 派が1995年に、タイニン派が1997年に公認された。〈セクション2：宗教的自由の現状〉宗教に関する憲法や政府議定、そして2003年1月の共産党中央委員会決議は宗教の自由を規定しているが、ヴェトナム政府は宗教団体の組織的活動をかなり制限している。

[カオダイ教]：ヴェトナム政府はカオダイ教を解体しなかったが、1977年に祖国戦線の管理下においた。政府は迷信だとして幾つかの重要な儀礼を禁じ、1970年代後半には多くの聖職者を投獄したり殺害したりしたという。政府は1995年にカオダイ教の再組織化をはじめた。1997年、カオダイ教管掌評議会は新しい憲章を策定し、霊媒の使用を含む伝統的な「迷信的」儀礼の禁止を肯定した。霊媒の使用は高位の聖職者の昇進に儀礼上不可欠であるため、新憲章は聖職者の昇進を禁じた。1999年12月、管掌評議会は、政府が受け入れ可能なようにその儀礼を修正することでカオダイ教聖職者と合意に達した。その結果、開催された大会で数百人の聖職者が1975年以来はじめて昇進した。第2回大会が2002年9月に開催され、追加の昇進がされた。カオダイ教の中には、管掌評議会の決定がカオダイ教の教義と伝統に忠実ではないと反対する人もいる。1999年4月の宗教に関する議定は、宗教施設の改修には地方当局の許可が必要だと規定している。また新築には省政府の許可が必要である。

[カオダイ教の虐待について]：信徒のホー・ヴー・カイン (Ho Vu Khanh) とチャン・ヴァン・ニ (Tran Van Nhi) が1983年に逮捕され、終身刑となった。その後20年の刑に減刑となり、カインは1月19日に刑期を終え、釈放された。ニは2000年9月に恩赦で釈放された。ゴ・ヴァ

- ン・トオン (Ngo Van Thong) は1977年に逮捕され、タイニン省人民裁判所で死刑判決を受けたが、その後終身刑に減刑。現在、ハノイ近郊の刑務所にいるものと考えられている。少なくとも一部は宗教的信念を平和的に表明したために拘束されたと思われる人は2003年6月時点では、カオダイ教徒ではゴ・ヴァン・トン (Ngo Van Thong) がいると指摘されている。
- (55) 『ニャンザン』2003年9月25日：ヴェトナム共産党と国家の宗教問題に対する基本的立場は、「宗教問題は常に国家・民族問題の中に置き、抗戦・建国のために民族大団結を実現しなければならぬ」というもの。
- (56) 『ニャンザン』2003年9月13日。
- (57) 『ニャンザン』2000年3月4日。
- (58) 『大団結』2001年10月10日。
- (59) 『ニャンザン』1998年10月9日。
- (60) 『大団結』1998年11月6～9日号。
- (61) 『ニャンザン』1999年6月23日。
- (62) 『ニャンザン』2000年2月15日。
- (63) 『ニャンザン』2000年10月7日。
- (64) 『大団結』2002年11月19日。
- (65) 『大団結』2003年9月5日。
- (66) Dang Nghiem Van, Nguyen Duy Hinh, Dang The Dai, Nguyen Quoc Tuan, Le Trung Vu: op. cit. p.139.
- (67) 『ニャンザン』2001年3月10日、『大団結』2001年3月14日。
- (68) 『ニャンザン』2002年12月20日。
- (69) 『ニャンザン』2002年12月22日。
- (70) 『大団結』1996年5月24日・42号。
- (71) 『ニャンザン』2001年4月13日。
- (72) 『大団結』2001年4月14日。
- (73) 『ニャンザン』2000年1月26日。